

令和5年度（城郷高等学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 項目・目標別実施結果

項 目	目 標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上（公務外非行の防止、職員行動指針の周知・徹底を含む）	法令遵守意識の向上を図り、公務外非行や交通事故を未然に防止する。教職公務員としてその責任を自覚するとともに、職務に専念し、服務規律を遵守する。	職員相互及び管理監督者とのコミュニケーションを大切にし、お互い言葉をかけ合い、ささいな問題でも指摘しあえる「風通しの良い職場」づくりを推進した。教職公務員としての自覚を促し、自覚とモラルの向上、刑法上の犯罪行為や青少年保護育成条例違反、迷惑行為防止条例違反等について、遵守徹底した。
職場におけるハラスメント（パワハラ・セクハラ・マタハラ等）の防止	他者の人権を尊重し、人権意識を高め、職場における不適切な言動を排除し、各種ハラスメントを防止する。	職員啓発資料や事例集を参考に、職場のハラスメントに関する理解を深めるとともに、人権全般についての意識の向上を図り、事故防止に努めることができた。
生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	職員一人ひとりが、生徒の人権を尊重し、不適切な関係、立場を利用したセクハラやわいせつ行為の発生を未然に防止する。	生徒の人権について、職員啓発資料や事例集を参考に職場研修を実施するとともに、ささいな問題でも指摘しあえる職場環境づくりを進めた。教育実習期間前にオリエンテーションで、セクハラ防止研修を実施し注意を促した。スマートフォン・電子メール・SNSの適切な使用について職員間だけではなく、生徒に対しても意識啓発を行った。
体罰、不適切な指導の防止	生徒の人権を尊重し、体罰・不適切指導の発生を未然に防止する。	職員啓発資料や事例集を参考に生徒の人権侵害に係る不祥事防止を周知し職員の意識の向上ができた。また、生徒理解に基づく指導を徹底し、生徒の指導は複数の職員で担当するとともに、他教員の目の届く場所で行った。
成績処理及び進路関係書類の作成・取扱いに係る事故防止及び入学者選抜に係る事故防止	全職員が当事者意識を持って業務にあたり、生徒の一生を左右しかねない重大な事故につながることを理解し、点検体制を再構築し、定めたマニュアルに基づき業務を行う。	定期試験実施や成績処理にあたり、全職員でマニュアルに基づく適正な業務遂行を確認し、共通理解を徹底できた。調査書・推薦書ならびに通知票等の作成・発行に係る事故、入学者選抜における事案についてダブルチェックを徹底し、適正な業務遂行ができた。
個人情報等の管理、情報セキュリティ対策（パスワードの設定、誤廃棄防止）	個人情報の適切な取り扱いに努め、個人情報の漏えいを未然に防止する。	情報セキュリティの点検や全職員を対象とした職場研修を実施し、意識の向上が図れた。個人情報についての適正な取扱いを周知し、持ち出しは禁止する。やむを得ない時はパスワード設定を励行するなど、情報漏えいを防止するダブルチェックを徹底できた。
交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通法規を遵守し、安全意識を高め、車通勤途上及び週休日や長期休業中の交通事故の発生を未然に防止する。	職員啓発資料を基に職員全員を対象とした職場研修を実施した。日常的に交通法規の遵守を呼びかけ、コンプライアンスの徹底ができた。
会計事務等の適正執行	私費会計基準に則して適正に会計処理を行う。	公費・私費の適正管理に努め、ダブルチェックを徹底できた。財務事務調査の指摘事項を全職員で共有化し、改善ができた。

○ 令和5年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和6年度に取り組むべき課題
(学校長意見)

○年間を通して計画的に不祥事ゼロプログラムの課題項目に取り組み、全職員の意識向上に努めてきた。「風通しの良い職場」を推進し、お互いに声をかけ合うことを心がけることでリスクマネジメントを徹底していく。

- ・不祥事防止研修では管理職からの指導助言だけでなく、同僚性を意識した内容を取り入れた。
- ・不祥事防止は、繰り返し指導することが必要である。今後もさまざまな方法を工夫しながら取り組む。
- ・校内・校外を問わず、常に教育公務員としての意識を持ち、社会規範やルールを遵守する姿勢を徹底する取組を強化する。
- ・ワークライフバランスを見直すよう呼びかけ、時間外の勤務時間を削減する。